

## <AGC 秋の巡行・塩竈の測量遺跡と東北復興のいま>見学記

平野 彰

今回の巡行・探索は、2004年10月那須基線、2007年9月都内の測量遺跡（白金高輪から泉岳寺、愛宕山を経て国会議事堂前の日本水準原点まで）と、2014年7月甲州街道沿い地形と几号水準点観察（日本橋三越前から日比谷公園を経て新宿御苑南端まで）、さらに2015年5月霊巖島&油壺験潮場探索、などに続く水準測量遺跡の探索である。10月19日午前10時 近藤L以下今井、渡辺、鎌田、高橋、平野の6名のメンバーが仙台駅東口エスパル仙台東館に集合。駅レンタカーにて6人乗りの車をレンタル。当日は強い雨が止まず、やむなく几号探索等は明日にして、本日は東日本大震災の跡地、復興途上の様子をドライブで見学することにした。運転は以前、震災ボランティアでこの地域を訪れた事のある渡辺が担当。急遽奇跡の一本松まで足を伸ばそうということになり、三陸自動車道を北上、陸前高田を目指す。途中道の駅大谷海岸で昼食、仮設のような施設に完全復興はまだまだ先だと感じる。そしてあの奇跡の一本松のある陸前高田市気仙沼町に午後2時前に到着。



津波伝承館を出て、海岸への道の途中の献花台を経て、防波堤に上ると、雨の中、穏やかな海が広がる。手前の「高田松原津浪復興祈念公園」には新たに植えられ松の苗が並びその傍らに「奇跡の一本松」があった。

塩害で枯れてしまったため、保存処理して残してあるとのこと。伝承館内には、被害にあった消防車や橋桁などが展示してあったが、高さ2メートルほどもある鉄製の橋桁が200m以上も押し流されたとのこと。改めて今回の津波の巨大さとその威力に驚かされた。ここを出ると、防波堤など工事途中の道を南下し、南三陸町志津川の木々の香も残る木造建屋が並ぶ「さんさん商店街」に立ち寄り、次いで



大川小学校跡へと向かった。雄大な北上川沿いに新北上大橋を渡ると直ぐ左側に、旧大川小学校がある。薄暗くなった中、廃墟と化した校舎跡を見て、ここまで津波が押し寄せてくることを誰もが想像できなかったのだろうと無念の思いが残る。

慰霊碑にあった鎮魂の鐘

を、遠慮がちに鳴らしてみたら、思いのほか大きな音が響き渡った。時間は午後 5 時に近い。牡鹿半島の宿を目指し、暗くなった牡鹿コバルトラインを、突然飛び出してきた鹿に激突しそうになりながら、カーブの連続をひた走る。6 時を回った頃小湊浜の「あたご荘」に到着。何人かは車酔いのせいかげっそり・ぐったり状態であった。早速の夕食は、ワタリガニ、アナゴの天ぷら、ホヤの燻製、ドンコの味噌汁、等々食べきれないほどの魚料理で一同大満足。



翌朝は青空と波穏やかな大原湾が眼前に、震災後釣り船などの漁船は一頃より少なくなったとのこと。比較的高台にあるこの「あたご荘」も一階部分は津波に襲われ、漁船などがぶち当たるなどで破損したため改装したとのこと。

8時30分 玄関前での記念撮影後出発。半島中央部の牡

鹿コバルトラインから山道に入る。ここからは豪雨による道が崩壊し通行禁止。歩いてほぼ1時間で440mの山頂「大六天山」(一等補点 点名:三国山)に到着(9時40分)。

次いで車は石巻市の日和山(ひよりやま)へと向かった。日和山公園三角点は、大切にしましょうと書かれた標識と共に散策路の柵の外側に忘れられたようにあった 11 時 10 分。日和山鹿島御児神社の本殿も、甚大な被害により解体とのこと。石巻のシンボルといわれた標高56mのこの山には、彼の震災の時、多くの人が避難し、降りしきる雪の中信じられない光景を目の当たりにしたことだろう。



12時20分 塩竈神社到着。昼食は旨い鮓屋で、ということで附近を捜し歩き「鮓のしらはた」に辿り着く。上寿司はもとよりデザートサービスの(葡萄が主原料アイスクリーム)

が絶品であった。

神社には、七五三のお祝いで、着飾った子供と付き添の親御さんたちで大賑わいである。

先ず東参道にある、燈籠を調査した。石の燈籠の台座 2 段目に漢字の不に似た記号が見える。(地理局文書では塩竈村杉坂町一之宮常夜燈臺石) 彫りが浅いうえに摩耗が進み、不鮮明なため指に水をつけなぞってみると、かろうじて「不」の形が現れ撮影ができた。

神社に参拝後、次の水準点(塩竈村塩祠華表新設石標)を目指す。表参道の階段を下りると大きな石の鳥居の右側にあり、保護用の石柱に囲まれ、良く手入れされている。ここの説明版には「高低几号標柱 高低几号は塩の干満の平均値から求められた標高の基準となる零メートル地点を示すものです 明治九年日本地図作成のため東京・塩竈間の水準測定に伴い各所に設置されました この高低几号標柱は独立した石柱として現存する唯一のもので 表参道付近まで入江となっていた当時の塩竈の姿を伝えています」とある。

因みにこの東京・塩竈間の几号について、1994 年頃国土地理院の数人が実地調査をしているが、そのメンバーの中に かつて当クラブ会員だった関義治氏が加わっていた。交通



事故でケガをしてリタイアしてしまったが、もしお元気なら今回の企画に喜んで参加されたのではないかと思います。今回計画の最後は多賀城市市川。陸奥総社宮から西に130メートルほどの地点で自然石に刻まれた珍しいものである。(地理局文書：宮城郡市川邑大久保坂街道北側ノ石)14時30分その隣には立派な案内板がある。

大久保坂街道の反対が、歴史的に名高い多賀城跡である。神亀元年(724年)奈良時代に創建され平安時代まで陸奥の国の政治、軍事の中心地であったが、今は一部道跡など復元されたのみで、約900m四方は一面草原であった。これで二日間の計画完了、出発地の仙台駅へと向かった。駅近くのファミレスで打ち上げ。帰りの電車に合わせ三々五々の解散となった。(文中敬称略)

